

令和五年度 定時総会報告

六月一日（木）に香川県教育会定時総会を開催いたしました。

松平頼昌会長からは、教員の免許更新制度が新たな研修制度へと発展的に解消されたことや近年大きな話題になっている「チャットGPT」や「生成AI」等の利活用の課題等、香川県教育会としても教員研修の充実・発展に向けて寄与していきたいとの旨のご挨拶がありました。

会長の挨拶に引き続き、会員退職者代表と役員等功労者七名の皆様に感謝状と記念品を贈呈いたしました。

この後、ご来賓の香川県副知事大山智様、香川県教育委員会教育長淀谷圭三郎様から祝辞を頂きました。議案決議では、①令和四年度事業報告②令和四年度会計決算報告・会計監査報告③令和五年度理事・監事の改選案について承認されるとともに、令和五年度事業計画並びに会計予算について報告がありました。

退職者代表

田崎伸一郎

功労者

國宗 芳彦 香川県教育会常務理事
森本 順二 高松市教育会副会長
徳田 二三男 さぬき市教育会長
水口 実 東かがわ市教育会長
滝 知代 香川県国公立幼稚園・こども園長会長
酒井 利治 木田教育会長
岡 静子 香川県教育会事務局長

（敬称略）



私が思い描く理想の組織は、「自走する集団」だ。附属坂出中に異動してから出会った言葉であり、追い求め続けてきた。

選手が目標に向かって走り出す。たとえば、目の前に困難があったとしても、目標を達成するためには必要なのだと理解して、自ら



勝つための戦術よりも「逆境に負けないメンタルをもち、自ら成長しようとする集団」を作ることが大切である。「自分で決める」ことはやる気につながる。コーチや監督だけが戦略を持ち、言われるままに動くチームではなく、「自律的に考え、行動し、仲間と助け合いながら、自ら学習、成長する集団」つまり「自らイノベーションを起こせる風土を持ったチーム」になることが肝要なのである。

イチローさんは「高商野球部は雰囲気がいい」と評された。理由は、高商の子どもたちは、自分で考えて、どんどん質問してくるからである。

野球は一人ではできないスポーツだ。自分が頑張ることを大前提としたうえで、その先に、「仲間のため」「世のため、人のため」という思いを常に持っていてほしい。そうすると、「高商野球部は自分のもの」という考えを持つようになり、「先輩が早く負ければ、自分の時代が来る」などという考えを持つことはなくなる。

一人一人が人間的に成長することで、よいチームワークが生まれ、強いチームへと進化する。選手の伸びしろは「人間性」（相手を想う心）である。

自分の成長・可能性を信じる人は伸びる。これも野村克也さんの名言であるが、「もうだめだ」という選手は成長しないが、「まだだめだ」と思える選手はこれから成長する。



リーダーシップには、3つの条件がある。

- ①他人の思いや感情に共感できる人間
強制は、拒絶反応を生むが、共感他人を動かす。
- ②自分が他者に支えられていることを実感し、それに感謝できる人間
- ③自分も他者に貢献したいと自然に思えるような人間

そして、組織のために何らかの形で貢献し、その行動がみんなに称賛される風土・文化を作ることがリーダーの役割である。



苦を拾っていく。指導者である私は、選手が走り出すための声かけや問いかけを大事にして、さまざまところに、選手のやる気が出るような「仕掛け」を作る。高校野球の監督というと、ピラミッドの頂点に立ち、トップダウンで厳しい言葉をかけ続けているイメージがあるかもしれないが、私の立ち位置は全く違う。選手とはフラットな関係で、笑顔で会話をすることもあれば、自らバッティングピッチャーを務め、選手とともに汗を流すこともある。

どこまでの説得力があるか不安ではあるが、「こういう指導方法もあるのか」「現場の指導に生かしてみたい」とひとりでも多くの方に思ってもらえたら幸いである。

長尾健司『導く力 自走する集団作り』竹書房（二〇二二）より

参加者の声

子どもたちのやる気を引き出し、「自走する集団」を作ることができれば、子どもたちにとっても教員にとっても、こんなに幸せなことはない、と改めて思いました。指導者として、既存組織のイノベーションへの関心・意欲を高めていただけるお話でした。やる気と元気を頂きました。



「一番しんどいことを、一番上の人間がする」

組織を整備していく中で、もっとも重要視したのはこの部分である。まずは、トップやリーダーが変わらなければならない。

部においては、片付けや準備など、しんどいことを下級生にやらせるのではなく、上級生が率先して行うようにした。しかし、この改革に対しては上級生からの反発がかなり大きかった。そこで、まずは監督自らがグラウンドの整備や水抜きを行うことからスタートした。続けているうちに、改革に賛同する2年生部員が現れた。新しい高商のスタートが見えた瞬間であった。

3年生には、「周りから尊敬されるに人間になりなさい」とよく声をかけた。上級生がチームのために、必死で頑張っていれば、チームに「3年生のために頑張りたい。」「なかまのために頑張りたい」という気持ちが芽生えてくる。

野村克也さんは、よく「無形の力」という話をされた。「無形の力」とは、「絆」である。下級生が上級生にあこがれを抱き、信頼に支えられた精神的余裕のある文化が創り出された集団（脱・体育会組織）においては、この力が大いに発揮され、野球のセオリーや能力を超えたパフォーマンスを生み出すことがある。

人のモチベーションが高まるのは、内からわいてくる興味や楽しさといった「内発的動機付けがある時である。「自分で決めること」がやる気につながる。授業と同じように、なるべく答えを言わず、選手たちに考えさせる。そもそも、間違った考えや答えなど存在しないと思っている。「価値ある答え」は、「考えた答え」であり、「正しい答え」ではない。

事務局より

令和5年6月1日の香川県教育会定時総会に合わせて、「かがわ教育の日」のつどい 協賛事業として『教育文化講演会』を開催いたしました。本年度は香川県立高松商業高等学校 硬式野球部監督 長尾健司先生を講師にお招きして、ご講演をいただきました。

指導者としての長尾先生の信念や矜持に深い感銘を受けた者の一人として、先生の著書『導く力 自走する集団作り』（竹書房）も参考にしながら、ご講演いただきました内容を、多くの会員の皆様にご紹介できれば幸いと考えております。

「かがわ教育の日」のつどい協賛事業

令和五年度 教育文化講演会

演題『自走する集団づくりをめざして』

講師

香川県立高松商業高等学校

硬式野球部監督

長尾

健司 先生

後援／香川県教育会、香川県中学校長会、香川県小学校長会、香川県国公立幼稚園・子ども園長会、香川県PTA連絡協議会